

全国福祉高等学校長会主催
平成30年度 第1回 社会福祉・介護福祉検定

3 級 問 題

(50分)

◎指示があるまで開けないでください。

注 意 事 項

- 1 解答用紙への受検番号等の記入
解答用紙に、受検番号、学校名、クラス、氏名を記入してください。
- 2 問題数は150問です。解答時間は50分です。
- 3 解答方法
 - (1) 各問題について、正しい文章であれば○、間違っている文章であれば×を解答欄に記入してください。
 - (2) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。
- 4 その他の注意事項
 - (1) 印刷不良やページが抜けている場合は、手を挙げて監督の先生に連絡してください。
 - (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。

平成30年度 社会福祉・介護福祉検定 3級

番号	問題
1	わが国の社会保障給付費を「年金」、「医療」、「福祉その他」という3部門にある、「福祉その他」のなかには介護保険による給付が含まれている。
2	福祉事務所は、市町村に必ず設置されている。
3	自立生活運動(IL運動)は、1960年代にアメリカの重度の障害のある大学生が、他の大学生と同じように病院を出て、地域で生活したのが始まりである。
4	身体障害者障害程度等級は1級から7級までである。
5	肢体不自由は、心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、肝臓、免疫機能に障害のある方をさす。
6	PTSD(心的外傷後ストレス障害)は、自然災害、激しい事故などの後に、無感覚や感情鈍麻、夢のなかで再体験が起こるなどの症状が出る障害である。
7	ソーシャル・インクルージョンとは、少数の人々を排除せず、共にあるべきとするヨーロッパの考え方である。
8	認知症の周辺症状には、記憶の障害、時間・場所などがわからなくなる、衣類の着方がわからなくなる、文字が書けなくなる、判断ができなくなる、などがある。
9	共助とは、生活保護や児童福祉をはじめ、公的機関によって支援されることをいう。
10	所得の額に応じて、負担額が変わることを応能負担という。
11	日本介護福祉士会は、2000年に倫理綱領を定めている。
12	在宅介護従事者は、利用者が在宅生活を維持していくために必要な福祉サービスの関係者と常に連携をとりながらサービスを提供していく必要がある。
13	フォーマルサービスは、公的なサービスではない、地域住民に民間団体などのボランティアを中心としたサービスである。
14	ユニットケアとは、利用者がプライバシーや生活のリズムを保つための個室を確保し、個別ケアを実現するための手段であるため、個室以外のスペースはない。
15	介護従事者だけでなく、対人援助に従事する人の基本的姿勢はバイステックの7原則に示されている。
16	介護福祉士の倫理綱領を定めるものとして、「日本介護福祉会倫理綱領」が1995年に宣言された。
17	介護福祉士の倫理綱領は、「社会福祉士及び介護福祉士法」において定められている。
18	ポディメカニクスの原則により、支持基底面積を広くすることで、重心の位置が下がり安定する。
19	麻痺がある場合、健側のひざ折れはふらつきや転倒につながるため、立ち上がる時は利用者のひざと介護者のひざを合わせて固定し、ひざ折れを防ぐ。
20	食事の時の姿勢は、誤嚥を防ぐために仰臥位にする。

番号	問題
21	聴覚障害者の食事を介助する時には、クロックポジションを用いる。
22	女性は、排せつ時に尿が後ろに回ることを配慮して、後ろ部分に尿取りパッドや紙おむつを重ねて厚くする。
23	ストマ保有者(オストメイト)のほとんどは、自分で便の処理ができる。
24	S状結腸人工肛門では、便は固まっており、排便回数は少ない。
25	日本式の座位入浴は身体にかかる水圧が高いため、心臓などの循環器系にかかる負担が少ない。
26	2008年5月から、EPA(経済連携協定)にもとづくインドネシアとフィリピンからの介護人材の受け入れが始まった。
27	介護事業所で働く人は女性が圧倒的に多い。
28	介護事業所で働く人の保有資格はホームヘルパー2級資格が一番多い。
29	2008年の実態調査において、福祉介護分野での就労継続の意向については、給与や労働条件に不満をもちながらも働き続けたいと約8割の人が答えた。
30	援助や介護サービスを不要とすることではなく、必要な介護サービスを自分で選択し、主体的にサービスを利用して生活を送ることも自立といえる。
31	介護を必要とする人々は、生活が不自由になると、その人の本質までも変わることがある。
32	介護従事者は、介護実践を通して、自分自身の態度にいつも気を配ることが重要である。
33	観察したことを人に伝える時には、観察した事実だけでなく、自分の解釈を入れながら伝えることが大切である。
34	杖歩行の際、介助者は、利用者の患側に立ちリズムをとって杖、健側、患側の順に歩く。
35	介護保険制度のサービスを利用するためには、支援や介護が必要となった高齢者本人などが都道府県に要介護・要支援認定を行う。
36	ケアマネジャーは、月に1回利用者宅を訪問して確認する「モニタリング」を行う。
37	要介護認定において要支援と認定された場合は、介護老人保健施設に利用申込みをする。
38	地域密着型サービスは、2006年4月から実施されており、高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう支援することを目的としている。
39	老人福祉法に規定されている特別養護老人ホームは、介護保険法では介護老人保健施設である。
40	行動援護とは、重度の視覚障害者の外出に同行するサービスである。

番号	問題
41	施設入所支援とは、施設に入所する人に、主に夜間入浴、排泄、食事の介護などを行うサービスである。
42	コミュニケーションとは、人間関係を形成する最も基本的な技術である。
43	介護従事者の思いや気持ちを利用者に伝えるためにもコミュニケーションは重要である。
44	介護を行うには専門的知識と技術が重要で、人間関係はあまり関係ない。
45	生活課題とは、個人と社会環境の間に生じる様々な不自由のことである。
46	会話は相手の話を聞くよりも、自分の体験を話すことで、その人を理解していると伝える。
47	心身の障害などの理由により、感情表現がうまくできない利用者に、絵や写真を見せての反応からその方の気持ちを推し量ることは有効である。
48	傾聴では偏見や先入観を持たず、利用者の話を好意と関心を持って聞き、理解しようとする態度が大切である。
49	利用者の気持ちを利用者の立場に立って理解し、「あなたの気持ちはよく分かる」ことを伝えることが大切である。
50	高齢者は若年者に比べると予備力が低下しているため、さまざまな環境に適応しにくく、病気にかかりやすくなり、回復にも時間がかかる。
51	高齢者は、加齢による腸蠕動の低下で下痢が生じやすい。
52	廃用症候群は関節の拘縮、筋萎縮、尖足や褥瘡(床ずれ)などの局所部分の機能低下に加え、全身の機能低下や精神面にも現れる。
53	高齢者はひとつの病気にかかると、心身の衰えと共に他の病気も起こしやすくなる。
54	年をとると、内臓や筋肉の細胞に含まれる細胞内液が少なくなる。
55	認知症は、種類や進行の程度によって症状の現れ方は異なることがあるが、もの忘れや記憶障害を特徴としている。
56	アルツハイマー型認知症は、脳が萎縮することによって起こる。
57	レビー小体病は、脳の全体にレビー小体という異常な物質が沈着して起こる。
58	認知症高齢者の徘徊は、目的がないことがほとんどである。
59	多くの内部障害は、急激に悪化したり、発作を起こしたりすることがあるので、周囲の人は緊急連絡先や主治医の連絡先などを知っておく必要がある。
60	精神障害者の支援や相談は、社会福祉専門職の認定心理士が担っている。

平成30年度 社会福祉・介護福祉検定 3級

番号	問題
61	ピアジェは、幼児期までの間に口唇期などのいくつかの発達段階を経て、パーソナリティの基礎がつくられ、それぞれの時期にどれだけ欲求が満たされるかで性格が異なってくると考えた。
62	アメリカの教育学者であるハヴィガーストは、発達課題とし社会的行動の形成を取り上げた。
63	エリクソンは、人との社会的関係から心理社会的発達を8段階で示し、青年期における自己同一性(アイデンティティ)の確立を重要視した。
64	生まれてから死ぬまでの全生涯の変化を老化という。
65	ストレラーは、老化現象に共通する原則として、普遍性、固有性(内在性)、進行性の3つをあげている。
66	エイジズム(年齢差別)は、レイシズム(人種差別)、セクシズム(性差別)に続く第3の重大な差別と考えられている。
67	行動や考え方が、固定的・画一的であり、新鮮味のないことをステレオタイプという。
68	恒常性を維持するために、防衛力、予備力、適応力、回復力といった力が働く。
69	高齢者では、病気に対する反応のしかたが若者とは異なり、症状や経過が定型的である。
70	加齢による聴力の低下では、低音域の聞き取り困難が多い。
71	認知症介護は1970年代までは在宅が中心で、家族の介護負担がとて大きかった。
72	1970年代の認知症高齢者の施設は回廊式で、そこでつなぎ服を着せ、鍵をかけて施設内に閉じ込めるという介護が一般的だった。
73	1989年12月に高齢者保険福祉推進十か年戦略(通称ゴールドプラン)が策定され、保健福祉サービスが計画的に整備され始めた。
74	グループホームは、15~20人を単位とした共同住居で、食事や掃除、洗濯などをスタッフと利用者が共同で行い、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活することができる。
75	ユニットケアとは、入居者個々の尊厳を重視し、個人の「自律」を尊重するため、施設の居室を1ユニット20人以下のグループに分け、それぞれをひとつの生活単位としたものである。
76	パーソンセンタードケアとは、世界的に大きな影響を与えた認知症のケアの理念であり、その人を中心とした介護をさす。
77	認知症高齢者の数は、後期高齢者の増加と共に増え続け、2040年には350万人をこえるとも予想されている。
78	後期高齢者の増加とともに認知症高齢者の数の増加が予想されているが、とりわけ脳血管性認知症の増加が予想されている。
79	正常な物忘れは、次第に悪化し、行為の全てを忘れてしまうことが多い。
80	徘徊、妄想、不安、興奮、攻撃など、記憶障害に伴う認知症に特有な行動・心理症状(BPSD)を中核症状という。

番号	問題
81	認知症の原因となる病気はいくつかあるが、約50%以上がアルツハイマー型である。
82	認知症の初期には、自分の不安な気持ちやいらだち、苦悩などを訴えることがあるが、進行性の疾患ではないため、比較的適切に伝えることができる。
83	「地域包括ケア」は、都道府県が運営主体となり、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるためのサービス支援システムをつくることである。
84	認知症の人が自宅で安心して暮らしていくために、「通所」「訪問」「宿泊」といった多機能のサービスが1か所に集まったサービス形態を、小規模多機能型居宅介護サービスという。
85	小規模多機能型居宅介護事業所の定員は、10名以下である。
86	1981年の国際障害者年のテーマである「完全参加と平等」に代表される障害者福祉の理念が発展するなかで、1993年12月に障害者基本法が成立した。
87	近年では、「包含」を意味するインクルージョンという考え方が普及している。これは障害の有無にとらわれず、個人のニーズに応じた支援や援助の必要性を強調したものである。
88	バンク＝ミケルセンは、「ノーマライゼーションの父」と呼ばれ、ノーマライゼーションの理念を「1959年法」に反映し、ノーマライゼーションの理論化をはかった。
89	リハビリテーションの分野には、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーションのみである。
90	ワーカビリティ・アプローチとは、従来の病気や障害に着目した援助から、健康な部分や可能性に着目し、抑圧的な環境を改善することによって、本人自身が自らの課題に気づき、主体的に解決策を見いだしていく支援方法である。
91	身体障害者福祉法では、身体障害者を「別表に掲げる身体上の障害がある20歳以上の者であつて、都道府県知事から身体障害者手帳の交付を受けたものをいう」と定義されている。
92	視覚障害とは、視力(ものの形を認識する力)がない、あるいは、十分な視力がない、視野(見える範囲)や色覚(色を見分ける力)、眼球運動(視線を移動する力)に障害がある場合をいう。
93	言語障害とは、発音や話し方の表現および言葉の理解が困難な状態をいう。先天的なものや運動麻痺によるものがある。
94	脳血管障害は、自分の意思にもとづいて手足を動かすことが困難になる運動障害の他、言語障害を伴うことがある。また妊娠中における母親の病気や難産および乳幼児までの高熱などを原因とすることが多いため、母親に自分を責める気持ちが強く見られる。
95	内部障害とは、からだの内部にある臓器が十分に機能せず、日常生活が制限される状態をいう。身体障害者福祉法の対象となる臓器は、心臓、肝臓、呼吸器、膀胱または直腸、小腸であり、2010年度より腎臓が加えられた。
96	難病は、①運動神経系のもの(筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、筋ジストロフィーなど)と、②内臓・皮膚・血液系のもの(全身性エリテマトーデス、悪性関節リウマチなど)に大きく分けられる。
97	高次脳機能障害とは、脳の損傷で脳の活動や指令がうまくいかなくなり、社会生活を営むために必要な機能が失われることである。
98	障害の受容におけるショック期では、心理的には平穏で感情が鈍くなっている。
99	障害者の自立生活を支援するには、個人とその個人を取り巻く環境を含めた全人的理解が必要である
100	ユニバーサルデザインの7原則には、「使い方を誤ったとしても危険でないよう」が含まれる

番号	問題
101	過度の安静や介護力の不足等による長期臥床により、廃用症候群(生活不活発病)が生じ心身の機能低下を引き起こす。
102	高齢者や障害者の体位変換や移動・移乗の介助で重要なのは、利用者にとってのみ、安全で安楽であることである。
103	ボデイメカニクス活用の基本原則の中に支持基底面積を狭くし、からだを安定させるという原則がある。
104	長時間同一体位でいると、褥瘡の発生、関節の拘縮、骨や筋肉の萎縮が起こり、移動がいつそう困難になる。
105	車いすをたたむ時は、ブレーキをかけ、フットサポートを上げる。そして、車いすの横で座面の中心部を持ち上げてたたむ。
106	杖歩行の階段の上り方は、まず杖を一段前に出す。次に健側の足を踏み出す。そして患側の足を引き上げる。
107	アセスメントから食事介護のプランを立てる時、利用者の意思を十分に配慮することは考えなくてもよい。
108	食事の5つの過程は、①準備期 ②先行期 ③口腔期 ④咽頭期 ⑤喉頭期である。
109	誤嚥予防のための食事の姿勢で、からだを起こせない場合は、仰臥位で顔だけを横に向ける。
110	認知症や感覚低下があると適切な温度管理ができず、厚着などで異常な発汗があり、脱水状態になりやすい。そのため、こまめなチェックとアドバイスが必要である。
111	人間のからだは、体重の50%~60%が水分でできている。したがって健康維持には一定の水分が保たれることが必要である。
112	入浴や清拭は、からだを清潔に保つだけでなく、血行促進や新陳代謝を促す生理的な意義がある。
113	清潔行為の習慣は個人差が大きく、入浴や清拭等は肌を露出することになり羞恥心を伴うため、介助では身体機能や自立度に合わせ、同性介護などできるかぎり個人の意向を尊重して実施する。
114	入浴の作用には、冷感作用・静水圧作用・浮力作用がある。
115	からだに静水圧がかかると血液環流が低下するため、脳への血流量の低下や、血圧の著しい変動が起こり、心臓や肺に負荷がかかる。
116	介護従事者は浴室や脱衣所の温度、浴槽のお湯の量や温度の調節を行う必要はない。
117	移動時の立位や歩行の安定度、座位での洗身は姿勢保持の安定度を確認して介助する。
118	排尿や排便の行為は、普段の生活のなかで尿意や便意を知覚することから始まる。
119	排尿を試みるが尿排泄が困難な状態を尿閉、膀胱内に尿が充満しているにもかかわらず排尿ができない状態を排尿困難という。
120	腎臓に送られた血液は糸球体でろ過され原尿となり、原尿の約99%は尿細管で再吸収され1%が尿となる。

番号	問題
121	通常、便は食べ物が摂取されてから約12～24時間後に肛門から排泄される。
122	排せつ介護では、羞恥心への配慮やプライバシーの保護が重要であり、同性介護などできるだけ利用者の希望を取り入れた介助をする。
123	腹圧をかけやすい姿勢は、座位で足底が床につき、前傾姿勢である。
124	下痢の回数が多いと水分・電解質の喪失が著しくなり脱水症状を起こす可能性があるため、経口摂取ができる場合でも輸液が必要となる。
125	便意がなくもれてしまう場合を漏出性便失禁、便意はあるがトイレまで我慢できずにもれてしまう場合を切迫性便失禁という。
126	尿・便の失禁が見られる場合は、失禁の改善に向けた援助の他、おむつを使用する方法もある。
127	和式便器は、安定感があり容量が大きく深い。また、差しこみ部分が広く、体格のよい人に向いている。しかし、差しこみ部分に高さがあるため、腰が上がらない人には向かない。
128	夜になったら眠り、朝になったら目覚めるというリズムが人間のなかに存在しており、サーカディアンリズム(概日リズム)と呼ばれている。
129	脳内にある体内時計は1日が24時間であり、1日を24時間とする外界の環境と同じになっている。
130	睡眠障害にはいろいろなパターンがあるが、いったん寝ついても夜中に何度も目が覚めるものを入眠障害という。
131	睡眠障害における観察ポイントとして、騒音や光度により睡眠が妨げられていないか、寝室の温度や湿度は適切かなどの環境因子も重要である。
132	睡眠薬を服用した場合の副作用や生活上の影響などの観察は、看護師等の医療従者が行う。
133	夜間せん妄が起きた場合、照明をつける、足元の安全をはかる、静かな環境をつくる、見守るなどの対応が必要である。
134	臥床期間が長い人にとっては、ベッドよりも通気性に優れた和式の布団の方が適している。
135	レクリエーションも介護と同様に、必要となる支援の種類や量、時期などのニーズは誰でも同じである。
136	高齢者に対して、建築物等のソフト面の環境整備だけではなく、人的支援サービスなどハード面の環境や地域資源と連動した生活支援を行うことが必要である。
137	「エイジング・イン・プレイス」とは「住み慣れた地域社会を基盤としたその人らしい生活の保障」を掲げたものである。
138	ユニバーサルデザインは、できるだけ多くの人が年齢や能力の違いにかかわらず可能な限り使いやすいデザインをめざす考え方である。
139	ユニットケアとは、居宅に近い居住環境のもと、居宅での生活に近い日常の生活のなかで介護をおこなうことである。
140	アンペイドワークには、「家事」、「育児」、「家庭内介護」などが含まれているが、「地域活動」や「PTA活動」などは含まれていない。

番号	問題
141	高齢者は、咀嚼する力が低下することはあっても味覚が鈍感になることはない。
142	ゴミの分別法は国で統一されている。
143	スカートやズボンの裾ほつれなどの補修に使う縫い方を並み縫いという。
144	シーツの素材は、吸湿性に優れているポリエステルの方がよい。
145	一人暮らし高齢者の割合は横ばい傾向である。
146	テレビやカタログの通信販売で商品を購入した際にもクーリング・オフ制度が適用され、返品が可能である。
147	近年、悪徳商法や詐欺事件にあう高齢者が増加している。
148	身じたくの介護が必要な人は、着替えや爪切り、歯磨きなどといった、それまで生活習慣として当たり前に行ってきたことに困難が生じている。
149	爪切りは、爪や爪周囲の皮膚に異常がなくても、介護従事者の仕事の範囲に含まれない。
150	生活場面にふさわしい衣服を着ることは、動きやすさや生活のしやすさだけでなく、美しさなどの自己表現にもつながる非言語的コミュニケーションでもある。

受験番号						学校名					
クラス	年	組	番			氏名					

	解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		
1	○	11	×	21	×	31	×	41	○	51	×	61	×	71	○	81	○	91	×
2	×	12	○	22	○	32	○	42	○	52	○	62	○	72	○	82	×	92	○
3	○	13	×	23	○	33	×	43	○	53	○	63	○	73	○	83	×	93	○
4	○	14	×	24	○	34	×	44	×	54	○	64	×	74	×	84	○	94	×
5	×	15	○	25	×	35	×	45	○	55	○	65	×	75	×	85	×	95	×
6	○	16	○	26	○	36	○	46	×	56	○	66	○	76	○	86	○	96	○
7	○	17	×	27	○	37	×	47	○	57	○	67	○	77	○	87	○	97	○
8	×	18	○	28	○	38	○	48	○	58	×	68	○	78	×	88	○	98	○
9	×	19	×	29	○	39	×	49	○	59	○	69	×	79	×	89	×	99	○
10	○	20	×	30	○	40	×	50	○	60	×	70	×	80	×	90	×	100	○

①1～10の得点	②11～20の得点	③21～30の得点	④31～40の得点	⑤41～50の得点	⑥51～60の得点	⑦61～70の得点	⑧71～80の得点	⑨81から90の得点	⑩91から100の得点
----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-------------

	解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄
101	○	111	○	121	×	131	○	141	×
102	×	112	○	122	○	132	×	142	×
103	×	113	○	123	○	133	○	143	×
104	○	114	×	124	×	134	×	144	×
105	○	115	×	125	○	135	×	145	×
106	○	116	×	126	○	136	×	146	×
107	×	117	○	127	×	137	○	147	○
108	×	118	○	128	○	138	○	148	○
109	×	119	×	129	×	139	○	149	×
110	○	120	○	130	×	140	×	150	○

⑪101～110の得点	⑫111～120の得点	⑬121～130の得点	⑭131～140の得点	⑮141～150の得点
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

①から⑮の合計
/150